

戸田盛和著

おもちゃの科学 (全6巻)

日本評論社 各1957円(第1, 3, 4巻),
各2060円(第2, 5巻), 2369円(第6巻)

戸田さんの本が出た。全部で6巻ある。これは、1970年から20年にわたって『数学セミナー』に連載された「おもちゃセミナー」の単行本化である。

第1巻から第4巻までは、『おもちゃセミナー』(正・続)に収録され、ベストセラーになったのは記憶に新しい。そして、その後の記事をまとめて6巻とし、タイトルも一新された。著者のライフワークの完全保存版となった。

私は、以前から著者のファンであり、雑誌に連載のころは、その記事だけを読むために雑誌を買っていたものである。

どれが面白いかというと、全部である。しいて選ぶとすれば、やじろべえ工法、くさり鎌時計、宇宙振子、ういてこい、逆立ちごま、はばたき飛行機、モミジの羽根、昇り人形、かくれびょうぶ、何もしない、BOLAS、蛇の歩み、地図の折り方、などである。

この本の活用法は、実際に、おもちゃをひとつずつ買ってみることである。おもちゃを触ってみて、または作ってみることで、

おもちゃに潜む文化や科学を知ることだろう。けっして活字だけに終わらせてはならないことだ。

ミウラ折りなどは、折ってみないとその素晴らしさがわからないのである。

私の本棚には、寺田寅彦、ロゲルギスト(『物理の散歩道』)、戸田盛和の本がひときわ目立つところにある。

この3者に共通して言えることは、

1. 身近な話題を取り上げていること
 2. 意外性を含んでいること
 3. 文章がやさしく親しみやすいこと
 4. 読んでいて楽しくなること
 5. 科学の真理に触れていること
- である。

ところが、現在市販の理工学書はどうだろうか。これらと正反対である。受験にしかでてこない無味乾燥な話題、大して面白くもなく数式ばかりで読みづらい、知識のコピーや羅列であり読んでいと腹が立つてくる等々。科学や数学は、はじめに数式ありきではない。自然界には、数式ではなく不思議な現象や真理がひそんでいる。それに接してはじめて感動するので。

数式のない縦書きの科学の本。数式なしで科学や数学を語ることは難しいことだが、いまこの時代に大切な気がする。

(西山 豊)

中島隆夫著

楽しい微積分

東京図書 2000円

もう少し早くに、この本と出会いたかったです。今や、微積と聞くだけで、拒絶感が湧いてきます。難しい、苦手、ややこしい、というような微積に対するイメージをあげだしたら、まったく、きりがありません。

しかし、本を読み始めてみて、もし微積を習った高校時代に、この本を手にしていたら微積は私にとって、もっとおもしろいものになっていたかもしれないと思いました。

本来、習った微積とはまた別の教科を勉強するような感覚で、この本を読み進んでいきました。そこで、今まで気にも留めなかったあたり前のようなことも、改めて、きちんと理解できた気がしました。実際、書いてあることが理解できるので、楽しかったです。

一度読み始めると、本の流れにのって、次から次へとスムーズにページが進みました。次々に新しい興味をひき起こしてくれるような内容で……。私にとっては、このことが大変重要なのですが、あきることがありませんでした。文章がすべて会話調になっているところも、実際、疑問に思うこ

とを登場人物がかわりに話しを進めて質問してくれたり、読む側に、固く難しいという感じを与える妨げになっていたりという点で良かったです。

そしてなにより、以前よりも微積を身近に感じるようになりました。(近藤 由美)

東海地区数教協第20回地区研究会議

日時 1995年12月9日(土) 2時30分

～10日(日)12時

会場 愛知県岡崎勤労福祉会館

☎0564-53-1151

内容 12月9日(土)

講演 「元気の出る算数・数学教育」

野崎 昭弘(大妻女子大・数
教協副委員長)

子どもたちの現状と「提言」を考える

10日(日) 実践交流会

参加費 1000円(数教協会費納入者は無料)

宿泊費 6000円(一泊二食)

参加申込 宿泊される方は、11月26日

(日)までに電話またはハガキで、必ずご連絡ください。

連絡・問合せ先

〒491 一宮市大和町戸塚連田58-22

奥村 明 ☎0586-44-8037